

松田丈志さん（元競泳選手）

宮崎県延岡市出身。4歳から地元の東海（とうみ）スイミングクラブに通い、一貫して久世由美子コーチの指導を受け、自由形、バタフライの2種目で活躍した。04年のアテネ大会で初めてオリンピック代表になったが、東海クラブのプールが防寒用ビニールで覆われていたため「ビニールハウスのヒーロー」と呼ばれた。08年の北京大会の200mバタフライで銅メダル。12年のロンドン大会では競泳チームのキャプテンとして、200mバタフライ決勝では王者マイケル・フェルプスとのデッドヒートの末にタッチの差で銅メダルを獲得。400mメドレーリレーでは第3泳者で出場し「(北島) 康介さんを手ぶらで帰らせるわけにはいかない」と檄を飛ばして日本初の銀メダルを持ち帰った。4度目のリオデジャネイロ大会でも800mリレーでメダルを獲得するなど、オリンピックの顔となった。現役引退後は、サーフィン、トライアスロンなどにも挑戦しアクアスポーツの新たな可能性を探っている。

<もっと自由に>

私は2016年のリオデジャネイロオリンピックを最後に引退してから、マラソンやサーフィン、トライアスロンなど、水泳以外のスポーツにトライしてきました。またメディアの仕事を通じて他の競技の方々と交流する機会を持つこともできました。そこで感じたことは、自分が水泳で世界のトップを目指しながら学んできたトレーニング理論、トレーニング方法、スポーツ栄養学などの知識が他の分野にも共通するという点。水の動きは陸に通じ、陸の動きは水にも通じると実感したのです。

現在、都内でトレーニングジムを2店舗経営していますが、プールはありません。水泳出身者なおかしいと言われることもあります。日本にはプールはたくさんあります。前回、1964年に開催された東京オリンピックのレガシーとして、首都圏だけでなく地方都市にも多くのスイミングクラブが生まれたからで、子供たちがスイミングスクールに通うのはごく普通のことになっています。自治体が持つプールもでき、極端に言えば、多すぎるほどプールがあります。プールの維持にはコストがかかりますから、必要ならそうした施設を活用すればいいわけで、そのためには、情報を常にアップデートし、横とのつながりを心掛けることが重要になります。水泳とか陸上競技といった垣根を取り払うことで、多くの可能性が生まれてきます。

私は宮崎県延岡市の出身です。バルセロナオリンピックの金メダリスト、岩崎恭子さんが静岡県沼津市の出身だったように、水泳の場合は地方都市のスイミングクラブで育ったオリンピック選手が少なくありません。地方のプライベートクラブでの少数精鋭指導は可能なのですが、トップを目指すだけがスポーツの目的ではないと思います。私が色々なスポーツに取り組んだのは楽しいからで、楽しむことで裾野が広がり、その中からエリートも発掘されるように思います。実は、裾野を広げる手段であるはずの地方大会が幾つも潰れている現実があります。延岡では毎年、北浦～島浦横断のオープンウォーター大会が行われていましたが、昨年は中止に追い込まれました。豊富な情報を駆使して垣根を越えた力を合わせれば、こうした地方色豊かな機会を発展させ、地方の活性化に貢献することもできるはずです。

これからは他競技とのクロスオーバーでスポーツの面白さを探求し、インターネットの活用で情報をアップデートしながらスポーツの裾野を広げていく時代だろうと思います。